

## 20世紀初期における大阪・大連の汽船航路の研究

劉 婧

### 1 はじめに

日本が最初の海外定期航路として1875年に中国航路として横浜と上海を結ぶ航路を開設し<sup>1</sup>、さらに日露戦争後の日露講和条約締結以降は大連へ海外定期航路を開いていった。

日本が大連を租借した1905年から1945年までの40年間、日本と大連との交流は船舶、特に汽船に依拠しなければならなかった。植民地時代における大連と日本との汽船航路の運営は主に日本の汽船会社が担っていた。日本と大連間の航路には日本の汽船が運航され、大連港の繁栄に貢献した。<sup>2</sup>日露戦争後、租借地「関東州」すなわち東北地方の経営、大連の開発および南満洲鉄道事業の繁栄と相まって、日本人の大連への往来が活発となり、大連と日本各港間の航路の重要性は増した。

日本・大連の航路に関するこれまでの研究は、片山邦雄の『近代日本海運とアジア』<sup>3</sup>が主に明治前期の東北地方の牛荘港の航路について述べているが、日本と大連間の航路については検討されていない。秦源治の『夢満載の大連航路あ・ら・か・る・と』<sup>4</sup>が大連港と汽船の写真を多く掲載し、日本と大連の航路について述べているが、航路の実際運行状況は検討されていない。松浦章の「清末中国と日本間の汽船定期航路—明治期日本最初の海外定期航路」<sup>5</sup>は日本と上海間の航路について述べているが、20世紀初期における大阪と大連間の航路については触れていない。しかし、本稿では航路の航運状況の考察方法など多いに参考した<sup>6</sup>。以上のように、20世紀初期における大阪と大連間の汽船航路に関する研究はほとんどないと言える。

<sup>1</sup> 松浦章、『近代日本中国台湾航路の研究』、清文堂出版、2005年6月25日、序文。

<sup>2</sup> 郭鉄庄・関捷、『日本殖民統治大連四十年史上』、社会科学文献出版社、2008年5月、430頁～431頁。

<sup>3</sup> 片山邦雄、『近代日本とアジア海運』御茶の水書房、1996年3月、81～85頁。

<sup>4</sup> 秦源治、『夢満載の大連航路あ・ら・か・る・と』、20世紀大連会議、2008年10月。

<sup>5</sup> 松浦章、「清末中国と日本間の汽船定期航路—明治期日本最初の海外定期航路」、『近代日本中国台湾航路の研究』、第一編第一章、清文堂、2005年6月、31～68頁。

<sup>6</sup> 松浦章、『近代中国日本台湾航路の研究』、清文堂出版、2005年6月25日、127頁の表1。

そこで本稿では、日本と大連において刊行されていた新聞を利用し、大阪・大連の汽船航路の開設について検討し、定期航路を開設して以降、大阪と大連間の汽船航路を確保し定期運航を行っていたのかを考察し、20世紀初期における大阪と大連間の汽船航路がどのような役割を担っていたかを明らかにするものである。

## 2 大阪・大連航路の開設

『満洲日日新聞』第4232号1919年9月7日付の記事「大連は満蒙の海運として生れたり」によれば、大連海運の発足を次のように述べている。

我が帝国が満蒙開発の海港として大連を選定したるは、単に露国の声に倣いたるに非ずして、充分科学的研究の結果に外ならず、乃ち地理的満蒙の中心たる奉天より、營口は百十一哩の最短距離に在るも、港内水浅くして、入港し得る船舶は三千噸以下に過ぎず、且つ農産物の出盛りなる冬季四五ヶ月間は結氷し、航通杜絶す、奉天より安東県は百七十哩にして、距離に於て第二位に在るも千噸以下の小型船の外入港不能にして且つ營口同様、冬季結氷不通となるを以て、二者共に海港として適当なる地に非ず、而して大連たるや、奉天より二百四十八哩にして、距離に於て第三位にあるも、常に不凍港たるのみならず、港内広く、潜水深く一万噸内外の大船巨船一時に数十隻を横付けするに足るの要素を備え、満蒙沿岸唯一無二の良港なり、是れ大連が満蒙の吞吐口たる一大使命を以て生れたるものにして、同時に満蒙経営と離る可からざる楔子なり。

とあり、「奉天」すなわち今の瀋陽に近い營口港は水深が浅い上に、冬季になると結氷する。それに対して大連港は有利な地理的な位置にあり、中国東北部唯一の不凍港で、深い水域に囲まれている天然の良港である。「満蒙」開発の先導として、日本が大連港を重視したのは、大連と東北各港との競争を高め、大連と日本との関係を強化できることを意味していた。

1905年1月に大連は日本に占領され、ポーツマス条約によって関東州民政署の管轄となった。大連と日本を結ぶ航路が開設されるが、その最初の状況を『大阪毎日新聞』第7650号1905年1月6日付の「大連湾の渡航」が記している。

…今回大連湾の出入り船舶及び渡航商人に関する規定を定めこれを公布したり同規定に依るに帝国に船籍を有する千噸以上の船舶及び帝国臣民の許可を受け大連湾に渡航するの自由を得たるものにしてその許可に当たり多少の制限を設けたるは軍事の機密を保ち占領地の平和を維持する上において寧ろ適當の取締なりと云はざるべからず。

とあるように、大連への日本人の渡航には、一般民衆の渡航は困難で富裕層の商人のみが陸軍大臣の許可を得て自由渡航が認められていたことがわかる。

さらに第7650号1905年1月15日付の「青泥窪航海の許可につき」には、

大阪商船株式会社には陸軍省の許可を受けたるを以って、今後ダルニー大阪間に一週一回の定期航を開始することとなり、舞鶴丸は昨日出帆初航をなし、次は舞子丸十九日出帆の予定なるが、大本営にては本月四日の陸軍省告示に基づき日本人所有の船舶にして、大本営の指定する条件に欠くところなきものは総て、青泥窪へ航海を許すの方針にて願書を受理したるも。其の後神尾少将帰来して目下青泥窪の状況は多数の船舶一時に入港し、随って多人数に上陸者を見るに不適當なること判明したるより、当分各出願者に対し、許可を興へざることに改め既に興へたる許可は之を取り消したるが、之がため航海業者間にては大本営の方針を誤解し少数者に特権を興ふるものなりと察し非難の声を聞くに至りしが、大本営にては今回先づ御用商人船主等三百人を視察の為当地に渡航せしむるに決し一昨夜其の許可を興へたる次第にて尚其他の船舶の航海をも許し商人の渡航をも許可すべき方針なりという。

とあるように、大阪商船株式会社が青泥窪（大連）への航海の許可を与えられていたとして、第一船として舞鶴丸が1905年1月14日に大阪を出港したことは日本と大連間の航路開設の起点と言えるだろう。

数多くの商人や船主などは「大本営の方針」を誤解し、多数の船舶が一举に入港する事態となった。大連への渡航が少数者の特権になることで商人や船主から非難を浴びた。そのため、商人や船主など300人が大連に渡航の許可をもらい、視察によって次第に船舶の航海や商人の渡航などの許可が得られたのである。定期航路の遂行は困難となったため、大阪商船株式会社は陸軍当局の諒解を得て、定期運航の確保に努めた。そして、舞鶴丸と舞子丸の2隻による毎月4回の航海を運航したのである。各船は大阪を出港し神戸・門司に寄港して大連に航行した。

当時、日本郵船は「北支那就航船」として横浜と牛莊との間を定期運航していた横浜丸・芝罘丸を大連に寄港させ<sup>7</sup>、大阪商船株式会社と競争させた。この両社の競争を免れるため、両社による協定成立の結果、大連航路は専ら大阪商船株式会社が運航することになった。大連港は日本郵船のニューヨーク航路と欧州航路の寄港地となった。<sup>8</sup>

次の表1は『大阪毎日新聞』に連日掲載される出船広告を用いて作成した1905年の大阪商船株式会社による運航表である。

表1 1905年大阪商船株式会社の大阪・大連線の定期運航表

出港日	船名	出港地	到着地	寄港地	初掲載日	出版号
-----	----	-----	-----	-----	------	-----

<sup>7</sup> 『日本郵船株式会社百年史』、日本郵船株式会社百年史、1988年10月、171頁。

<sup>8</sup> 『日本郵船株式会社百年史』、日本郵船株式会社百年史、1988年10月、329頁、342頁。

19050114	舞鶴丸	大阪	大連	神戸・門司	19050114	7650
19050119	舞子丸	大阪	大連	神戸・門司	19050114	7650
19050129	舞鶴丸	大阪	大連	神戸・門司	19050120	7656
19050202	舞子丸	大阪	大連	門司	19050126	7662
19050214	舞鶴丸	大阪	大連	神戸・門司	19050203	7670
19050216	千代丸	大阪	大連	神戸・門司	19050212	7679
19050221	舞子丸	大阪	大連	神戸・門司	19050216	7683
19050307	舞子丸	大阪	大連	神戸・門司	19050224	7691
19050322	舞子丸	大阪	大連	神戸・門司	19050312	7707
19050330	舞鶴丸	大阪	大連	神戸・門司	19050315	7710
19050414	舞鶴丸	大阪	大連	神戸・門司	19050406	7732
19050418	千代丸	大阪	大連	神戸・門司	19050410	7736
19050501	舞鶴丸	大阪	大連	神戸・門司	19050421	7747
19050507	千代丸	大阪	大連	神戸・門司	19050426	7752
19050523	泉州丸	大阪	大連	神戸・門司	19050508	7764
19050523	千代丸	大阪	大連	神戸・門司	19050512	7768
19050608	千代丸	大阪	大連	神戸・門司	19050606	7793
19050621	泉州丸	大阪	大連	神戸・門司	19050612	7799
19050626	舞鶴丸	大阪	大連	神戸・門司	19050617	7804
19050627	千代丸	大阪	大連	神戸・門司	19050615	7802
19050705	基隆丸	大阪	大連	神戸・門司	19050628	7815
19050710	泉州丸	大阪	大連	神戸・門司	19050629	7816
19050713	千代丸	大阪	大連	神戸・門司	19050702	7819
19050720	基隆丸	大阪	大連	神戸・門司	19050713	7830
19050725	泉州丸	大阪	大連	神戸・門司	19050715	7832
19050805	基隆丸	大阪	大連	神戸・門司	19050722	7839
19050805	舞鶴丸	大阪	大連	神戸・門司	19050802	7850
19050810	泉州丸	大阪	大連	神戸・門司	19050729	7846
19050815	咸興丸	大阪	大連	神戸・門司・旅順	19050802	7850
19050820	基隆丸	大阪	大連	神戸・門司・旅順	19050806	7854

19050825	泉州丸	大阪	大連	神戸・門司	19050813	7861
19050831	威興丸	大阪	大連	神戸・門司	19050820	7868
19050903	基隆丸	大阪	大連	神戸・門司	19050826	7874
19050911	泉州丸	大阪	大連	神戸・門司	19050902	7881
19050915	威興丸	大阪	大連	神戸・門司	19050907	7886
19050919	基隆丸	大阪	大連	神戸・門司	19050910	7889
19050926	泉州丸	大阪	大連	神戸・門司・旅順	19050916	7895
19051001	基隆丸	大阪	大連	神戸・門司	19050928	7907
19051004	威興丸	大阪	大連	神戸・門司	19050929	7908
19051006	安平丸	大阪	大連	神戸・門司	19051002	7911
19051022	安平丸	大阪	大連	神戸・門司	19051014	7923
19051026	威興丸	大阪	大連	神戸・門司	19051013	7922
19051027	基隆丸	大阪	大連	神戸・門司	19051017	7926
19051105	安平丸	大阪	大連	神戸・門司・營口	19051025	7934
19051110	基隆丸	大阪	大連	神戸・門司	19051102	7942
19051115	威興丸	大阪	大連	神戸・門司	19051105	7945
19051126	基隆丸	大阪	大連	神戸・門司	19051118	7958
19051201	威興丸	大阪	大連	神戸・門司	19051125	7965
19051218	威興丸	大阪	大連	神戸・門司	19051208	7978

表 1 から明らかなように、大阪商船株式会社は、大阪・大連線に舞鶴丸・舞子丸・基隆丸・安平丸・千代丸・泉州丸・威興丸を投入し、1905年一年間に49航海、平均毎月4～5回の航海を行った。途中の寄港地は神戸・門司であるが、1905年8月15日、8月20日、9月26日出港の威興丸・基隆丸・泉州丸は積載貨物の目的地によって旅順や營口に寄港した。

1905年には舞鶴丸のほかに舞子丸・基隆丸・安平丸を加えて4隻配船とし毎週2航海の定期を行ったが<sup>9</sup>、表2から見れば、1905年下半期から、舞鶴丸と舞子丸とが出航していない。舞子丸は「1905年5月11日に機械水雷のため、爆沈した」のであった。<sup>10</sup>6月以降、舞子丸のかわりに3月購入の泉州丸は、ほぼ10日と25日に、毎月2回出航した。泉州丸は、「同年9月20

<sup>9</sup> 岡田俊雄、『大阪商船株式会社八十年史』、大阪商船株式会社、1966年5月1日、281頁。

<sup>10</sup> 神田外茂夫、『大阪商船株式会社五十年史』、大阪商船株式会社、1934年6月、402頁。

日に旅順港内沈没露船シルカア号に乗揚げ破壊委棄した」のである。<sup>11</sup>10月に泉州丸のかわりに安平丸は大阪・大連線に就航した。千代丸は雇用船として、定期航路に運行した。同年7月から千代丸のかわりに基隆丸は大阪・大連線に隔15日出帆の定期運行が始めた。舞鶴丸は1892年に製造した古い船舶である。占領初期、日満間の旅客と貨物が頻繁に来往する状態によって、定期船としての舞鶴丸は改善する必要があるがあった。1905年8月から、舞鶴丸のかわりに咸興丸は大阪・大連線に就航した。

以上の定期便に対して、不定期便があった。それについても『大阪毎日新聞』の広告欄を利用して、表2を作成した。

表2 1905年大阪商船株式会社大阪・大連線の不定期汽船一覧

出港日	船名	出港地	到着地	寄港	初掲載日	出版号
19050414	日英丸	大阪	大連	神戸・門司	19050411	7737
19050515	漳州丸	大阪	大連	神戸・門司	19050502	7758
19050601	漳州丸	大阪	大連	神戸・門司	19050519	7775
19050606	宮嶋丸	大阪	大連	神戸・門司	19050528	7784
19050620	宮嶋丸	大阪	大連	神戸・門司	19050610	7797
19050720	漳州丸	大阪	大連	神戸・門司	19050718	7835
19050825	宮嶋丸	大阪	大連	神戸・門司	19050816	7864
19050903	第三多聞丸	大阪	大連	神戸・門司	19050829	7877
19050907	中国丸	大阪	大連	神戸・門司	19050902	7881
19050915	明石丸	大阪	大連	神戸・門司	19050906	7885
19050921	第三多聞丸	大阪	大連	神戸・門司	19050912	7891
19050923	中国丸	大阪	大連	神戸・門司	19050920	7899
19050926	第二乾坤丸	大阪	大連	神戸・門司	19050922	7901
19050927	太和丸	大阪	大連	神戸・門司	19050925	7904
19051008	第三多聞丸	大阪	大連	神戸・門司	19051003	7912
19051018	二見丸	大阪	大連	神戸・門司	19051011	7920
19051102	臺東丸	大阪	大連	神戸・門司	19051028	7937
19051108	交通丸	大阪	大連	神戸・門司	19051101	7941
19051119	釜山丸	大阪	大連	神戸・門司	19051113	7953

<sup>11</sup> 神田外茂夫、『大阪商船株式会社五十年史』、大阪商船株式会社、1934年6月、402頁。

19051121	漳州丸	大阪	大連	神戸・門司	19051114	7954
19051123	畿内丸	大阪	大連	神戸・門司	19051114	7954
19051124	神幸丸	大阪	大連	神戸・門司	19051120	7960
19051128	交通丸	大阪	大連	神戸・門司	19051121	7961
19051202	福岡丸	大阪	大連	神戸・門司	19051201	7971
19051203	盛航丸	大阪	大連	神戸・門司	19051128	7968
19051207	宮嶋丸	大阪	大連	神戸・門司	19061206	7976
19051209	香取丸	大阪	大連	神戸・門司	19051201	7971
19051211	交通丸	大阪	大連	神戸・門司	19051202	7972
19051222	盛航丸	大阪	大連	神戸・門司	19051217	7987
19051223	宮嶋丸	大阪	大連	神戸・門司	19051216	7986
19051230	摂陽丸	大阪	大連	神戸・門司	19051223	7993
19061206	漳州丸	大阪	大連	神戸・門司	19051128	7968

表 2 に示したように、命令航路に指定されない時期に、大阪・大連線において不定期船の運航が多かったがわかる。不定期汽船は毎月 32 回の航海をし、神戸・門司に寄港した。占領後の大連を建設するため、日満連絡が頻繁になることに伴って、1905 年下半期に、不定期船の航海数は大きく増加した。不定期船が増加したのは、定期船の船舶自体が古く、そのうえ隻数が不足していたことによることは明らかである。

次の表 3 は大阪商船株式会社が、1905 年以降 1942 年まで大阪・大連線に配船した船の一覧である。

表 3 大阪商船株式会社に属する大阪・大連線船舶表

船名	総噸数 (噸)	登簿噸数 (噸)	製造年月	大連航路使用期間
舞鶴丸	1075.88	675.24	1892	1905～1906
舞子丸	1178.11	855.73	1892	1905～1906
泉州丸	1623.37	1006.49	190503	1905～1906
咸興丸	2135.52	1226.22	190502	1905～1906
安平丸	1698.06	1052.80	189611	1905～1906
基隆丸	1672.94	1034.78	189612	1905～1906
大仁丸	1576.48	899.54	190009	1906～1907
大義丸	1568.27	846.86	190012	1906～1907
開城丸	2084.76	1292.55	190511	1906～1911

鉄嶺丸	2142.88	1328.59	190512	1906～1910
天草丸	2509.00	1555.58	190609	1907～1915
嘉義丸	2508.51	1555.28	190707	1907～1921
臺中丸	3357.63	1804.12	189705	1911～1924
臺南丸	3450.05	1788.25	189706	1911～1924
哈爾賓丸	5169.28	3125.64	191407	1915～1942
ばいかる丸	5243.14	3075.30	192105	1921～1942
亜米利加丸	6069.54	3119.50	189803	1924～1942
香港丸	5993.50	3128.23	189807	1924～1942
うる丸	6374.84	3766.03	192812	1929～1942
うすり丸	6385.57	3789.28	193111	1932～1942
しあとの丸	5773.89	3547.93	190905	1932～1942
たこま丸	5772.48	3546.41	190902	1932～1942
扶桑丸	8188.20	4976.70	191912	1934～1941
吉林丸	6784	3825	193501	1935～1942
熱河丸	6784	3816	193503	1935～1942
黒龍丸	7369	4116	193712	1937～1941
鴨緑丸	7363	4069	193712	1937～1942

『大阪商船株式会社』<sup>12</sup>、『大阪商船株式会社五十年史』<sup>13</sup>、『大阪商船株式会社八十年史』<sup>14</sup>より作成。

表3に示したように、1905年から1906年年上半期まで、一部の汽船は日露戦争に徴用されたため、大連航路に就航する船舶は主に古い汽船であった。

### 3 大阪・大連定期航路の運航状況

『大阪毎日新聞』第8097号1906年4月6日の記事によると次のようである。

<sup>12</sup> 『大阪商船株式会社』、野村徳七商店調査部、1911年4月、99～105頁。

<sup>13</sup> 神田外茂夫、『大阪商船株式会社五十年史』、大阪商船株式会社、1934年6月、389～437頁。

<sup>14</sup> 岡田俊雄、『大阪商船株式会社八十年史』、大阪商船株式会社三井船舶株式会社、1966年5月1日、436頁。

「大連定期航海」満洲における戦後経営の一端として、大連湾定期航海国庫補助金十五万円は既に議会の協賛を経たるを以って、その筋にては愈々大阪商船株式会社に同航路を受負はしむる事に決し。今明日中に命令書を交付する、由右命令書の要点は神戸、大連湾に一周二回直航の定期航海を行ひ、之に使用する汽船は一千五百噸以上のもの四隻を要すといふにあり、商船会社にも予ねて該航路に囑望し居れば、政府の命令なくとも進んで、同航路を開始する筈なりと。

とあるように大阪・大連線は、1906年4月1日より遞信省の命令航路に指定され、舞鶴丸・舞子丸に代わって1,500総噸級の鉄嶺丸・開城丸・大仁丸・大義丸が配船された。

次の表4は『大阪毎日新聞』の出船広告を用いて作成した1906年12月の大阪商船株式会社による運航表である。

図 1<sup>15</sup>

表4 1906年12月大阪商船株式会社の大阪・大連線の定期運航表

出港日	船名	出港地	到着地	寄港地	初掲載日	出版号
19061201	開城丸	大阪	大連	神戸・門司	19061201	8336
19061204	大仁丸	大阪	大連	神戸・門司	19061201	8336
19061208	鉄嶺丸	大阪	大連	神戸・門司	19061202	8337
19061211	大義丸	大阪	大連	神戸・門司	19061204	8339
19061215	開城丸	大阪	大連	神戸・門司	19061206	8341
19061218	大仁丸	大阪	大連	神戸・門司	19061209	8344
19061222	鉄嶺丸	大阪	大連	神戸・門司	19061214	8349
19061225	大義丸	大阪	大連	神戸・門司	19061217	8352
19061229	開城丸	大阪	大連	神戸・門司	19061220	8355

表4から明らかなように1906年に大阪・大連線に就航した汽船は開城丸・大仁丸・鉄嶺丸・大義丸である。開城丸・大仁丸・鉄嶺丸・大義丸は隔3~4日間に大阪港を出港し、神戸・門司に寄港し、各船は月2回~3回の航海を行った。1905年より1906年にかけて大阪・大連線の定

<sup>15</sup> 『大阪毎日新聞』、1906年4月9日、第8100号。

期運航に就航したのは表 3 に示した汽船である。

次の表 5 は『大阪毎日新聞』と『満洲日々新聞』の出船広告を用いて作成した 1907 年 11 月～12 月の大阪商船株式会社による運航表である。

表 5 1907 年 11 月～12 月大阪商船株式会社の大阪・大連線の定期運航表<sup>16</sup>

出港日	船名	出港地	到着地	寄港地	初掲載日	出版号
19071104	開城丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071101	8671
19071109	開城丸	大連	大阪	門司・神戸	19071103	1
19071107	大義丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071101	8671
19071113	大義丸	大連	大阪	門司・神戸	19071109	7
19071111	天草丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071109	8679
19071117	天草丸	大連	大阪	門司・神戸	19071114	12
19071103	鉄嶺丸	大連	大阪	門司・神戸	19071103	1
19071114	鉄嶺丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071109	8679
19071116	鉄嶺丸	大連	大阪	門司・神戸	19071109	7
19071116	開城丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071106	8676
19071123	開城丸	大連	大阪	門司・神戸	19071114	12
19071120	大義丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071120	8690
19071126	大義丸	大連	大阪	門司・神戸	19071117	15
19071123	天草丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071120	8683
19071130	天草丸	大連	大阪	門司・神戸	19071119	17
19071120	鉄嶺丸	大連	大阪	門司・神戸	19071114	12
19071126	鉄嶺丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071115	8685
19071203	鉄嶺丸	大連	大阪	門司・神戸	19071124	22
19071201	開城丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071201	8701
19071207	開城丸	大連	大阪	門司・神戸	19071127	25
19071203	大義丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071121	8691
19071210	大義丸	大連	大阪	門司・神戸	19071129	27
19071208	天草丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071208	8708

<sup>16</sup> 劉婧、「20 世紀初期大連から朝鮮・日本への汽船航路」、『千里山文学論集』第 84 号、関西大学大学院文学研究科、2010 年 9 月、284～285 頁、表 2 と表 3 より作成、大阪からの出船広告は『大阪毎日新聞』に掲載され、大連からの出船広告は『満洲日々新聞』に掲載された。

19071214	天草丸	大連	大阪	門司・神戸	19071130	28
19071211	鉄嶺丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071129	8699
19071217	鉄嶺丸	大連	大阪	門司・神戸	19071206	34
19071215	開城丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071207	8707
19071221	開城丸	大連	大阪	門司・神戸	19071211	39
19071217	大義丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071205	8705
19071224	大義丸	大連	大阪	門司・神戸	19071218	46
19071222	天草丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071209	8709
19071228	天草丸	大連	大阪	門司・神戸	19071218	46
19071224	鉄嶺丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071212	8712
19071231	鉄嶺丸	大連	大阪	門司・神戸	19071226	54
19071219	大信丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071206	8706
19071226	大信丸	大連	大阪	門司・神戸	19071223	51
19071228	開城丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071216	8716
19080104	開城丸	大連	大阪	門司・神戸	19071229	57
19071231	大義丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19071219	8719
19080108	大義丸	大連	大阪	門司・神戸	19071229	57

表5『満洲日日新聞』の大連港の出船広告と『大阪毎日新聞』の大阪港の出船広告を対比すると、大阪・大連線に就航した汽船の航行状況が明らかになる。これらの汽船は大連へ赴く時に門司・神戸・下関に寄港する間に貨物の積み下ろしや天気の状態などによって、大連に到着する時間に違いがあった、これに対し帰航する時に門司・神戸に寄港した。同汽船で大連港を出船した時と大阪港を出船した日の間に最短で5日、最長8日の隔たりがあった。

資料1 『満洲日日新聞』第7号1907年11月9日の記事「鉄嶺丸の虎列刺患者」。去る三日當港を出帆したる鉄嶺丸が門司に碇泊し、検疫を受ける際、船客中に一名の虎列刺患者のりしを発見し、制則の消毒を施したる後、5日間の停船を命ぜられたり。

表5の1番目の鉄嶺丸は1907年11月3日に大連港を出船した。しかし、資料1によれば、1907年11月6日に鉄嶺丸が門司に寄港した時、一名のコレラ患者の旅客を発見し、5日間の停船命令を受けた。表5の11月3日、16日、20日に大連から出港の広告と11月14日、26日大阪から出港の広告を対比すると、鉄嶺丸は11月3日に大連港から出航し、11月6日に門司に寄港した時、コレラ患者が発見されたため、同汽船内に消毒を施し、後5日間の停船命令を受け

た、おそらく11月12か13日に大阪へ到着したと思われる。

資料2 『満洲日日新聞』第50号1907年12月22日「開城丸は無事」によると次のようであるによると次のようである。

一昨日の大風雪に棧橋繫留の開城丸が左舷に損所を生じて、沖合に避難したる由は昨日本紙欄外に記したるが、右は鉄板一枚を損じたるのみにて航海には差支へなく、内地にて修繕する筈。

資料2によれば、開城丸は1907年12月20日に暴風雪に遭遇し、左舷が破損され、修繕のために休航した。表5から見れば、開城丸が休航する間、12月26日に大信丸は開城丸の代わりに大連から大阪へ航行したことがわかる。

『時事新報』第11718号1914年4月2日付の記事「近海航路継続命令」第5条によると、次のようにある。

遞信省は支那航路大連線に年額十萬円の補助金を支給する。受命者は大阪商船株式会社である、本航路は大阪、神戸、大連間を航海し、往復は門司に寄港し、毎週二回以上一年期間百四回以上航海する。

とあるように、大阪商船株式会社は大阪・大連線を運航していた。大阪・大連線は、日本とアジア大陸を経由してヨーロッパに到る鉄道と連絡する大幹線となるため、大型で新式の快速船であるばいかる丸・哈爾賓丸（はるびん丸）・臺中丸・臺南丸を就航させた。

次の表6は『大阪毎日新聞』の出船広告を用いて作成した1908年～1921年間12月の大阪商船株式会社による運航表である。

表6 1908年～1921年間12月大阪商船株式会社の大阪・大連線の定期運航表

出帆日	船名	出港地	到着地	寄港地	掲載日	出版号
19081201	鉄嶺丸	大阪	大連	神戸・門司	19081201	9617
19081205	大義丸	大阪	大連	神戸・門司	19081201	9617
19081208	天草丸	大阪	大連	神戸・門司	19081201	9617
19081213	鉄嶺丸	大阪	大連	神戸・門司	19081202	9618
19081216	開城丸	大阪	大連	神戸・門司	19081203	9619
19081219	大義丸	大阪	大連	神戸・門司	19081206	9622
19081222	天草丸	大阪	大連	神戸・門司	19081209	9625
19081226	鉄嶺丸	大阪	大連	神戸・門司	19081215	9631
19081229	開城丸	大阪	大連	神戸・門司	19081217	9633
19091203	嘉義丸	神戸	大連	門司	19091201	9432

19091206	鉄嶺丸	神戸	大連	宇品・門司	19091201	9432
19091210	開城丸	神戸	大連	門司	19091201	9432
19091213	天草丸	神戸	大連	門司・下関	19091201	9432
19091216	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19091204	9435
19091217	潮州丸	大阪	大連	門司・仁川・鎮南浦	19091213	9444
19091219	鉄嶺丸	大阪	大連	宇品・門司	19091209	9440
19091223	開城丸	大阪	大連	門司・下関	19091211	9442
19091226	天草丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19091216	9447
19091230	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司・下関	19091220	9451
19101201	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司	19101201	9797
19101204	天草丸	大阪	大連	宇品・門司	19101201	9797
19101205	漳州丸	大阪	大連	門司・仁川・鎮南浦	19101201	9797
19101211	潮州丸	大阪	大連	門司・仁川・鎮南浦	19101208	9804
19101212	臺南丸	大阪	大連	神戸・門司	19101203	9799
19101215	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司	19101210	9806
19101218	天草丸	大阪	大連	神戸・門司	19101206	9802
19101222	開城丸	大阪	大連	神戸・門司	19101213	9809
19101227	嘉義丸	神戸	大連	門司	19101217	9813
19101230	臺南丸	神戸	大連	門司	19101224	9820
19111203	開城丸	大阪	大連	宇品・門司	19111201	10162
19111207	嘉義丸	神戸	大連	門司	19111201	10162
19111209	漳州丸	大阪	大連	門司・仁川	19111206	10167
19111210	臺中丸	大阪	大連	門司	19111201	10162
19111212	天草丸	大阪	大連	門司	19111204	10165
19111216	臺東丸	大阪	大連	門司・仁川・鎮南浦	19111209	10170
19111217	開城丸	大阪	大連	宇品・門司	19111209	10170
19111221	嘉義丸	神戸	大連	門司	19111215	10176
19111224	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19111215	10176
19111227	天草丸	大阪	大連	神戸・門司	19111221	10182
19111231	開城丸	大阪	大連	神戸・宇品・門司	19111223	10184

19121202	嘉義丸	神戸	大連	門司	19121201	10528
19121205	臺南丸	大阪	大連	神戸・宇品・門司	19121201	10528
19121209	臺中丸	神戸	大連	門司	19121201	10528
19121213	天草丸	神戸	大連	門司	19121204	10531
19121215	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司	19121208	10535
19121219	臺南丸	神戸	大連	宇品・門司	19121211	10538
19121222	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19121214	10541
19121226	天草丸	大阪	大連	神戸・門司	19121218	10545
19121229	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司	19121229	10553
19131203	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19131201	10893
19131204	嘉義丸	大阪	大連	神戸・宇品・門司	19131201	10893
19131208	臺南丸	神戸	大連	門司	19131201	10893
19131212	天草丸	神戸	大連	門司	19131202	10894
19131214	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19131207	10899
19131218	嘉義丸	大阪	大連	神戸・宇品・門司	19131210	10902
19131221	臺南丸	大阪	大連	神戸・門司	19131213	10905
19131226	天草丸	大阪	大連	神戸・門司	19131217	10909
19131228	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19131219	10911
19131231	嘉義丸	大阪	大連	神戸・宇品・門司	19131223	10915
19141204	嘉義丸	神戸	大連	門司	19141201	11258
19141207	臺南丸	神戸	大連	門司	19141201	11258
19141210	臺中丸	神戸	大連	宇品・門司	19141201	11258
19141214	嘉義丸	神戸	大連	門司	19141206	11263
19141218	臺南丸	神戸	大連	門司	19141208	11265
19141220	天草丸	大阪	大連	神戸・門司	19141211	11268
19141224	臺中丸	大阪	大連	宇品・門司	19141213	11270
19141227	嘉義丸	大阪	大連	宇品・門司	19141218	11275
19141231	臺南丸	大阪	大連	宇品・門司	19141223	11281
19151202	臺南丸	大阪	大連	神戸・宇品・門司	19151201	11623
19151205	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司	19151201	11623

19151209	はるびん丸	大阪	大連	神戸・門司	19151201	11623
19151212	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19151203	11625
19151216	臺南丸	大阪	大連	神戸・宇品・門司	19151207	11629
19151219	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司	19151210	11632
19151223	はるびん丸	大阪	大連	神戸・門司	19151214	11636
19151224	臺南丸	神戸	大連	門司	19151215	11637
19151226	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19151217	11639
19151229	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司	19151222	11644
19151230	大信丸	大阪	大連	芝罘	19151222	11644
19161203	臺南丸	大阪	大連	神戸・門司	19161201	11989
19161207	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19161201	11989
19161212	嘉義丸	神戸	大連	門司	19161202	11990
19161216	臺南丸	神戸	大連	宇品・門司	19161205	11993
19161219	臺中丸	神戸	大連	門司	19161209	11997
19161222	はるびん丸	大阪	大連	神戸・門司	19161213	12001
19161223	湖南丸	大阪	大連	神戸・門司	19161216	12004
19161224	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司	19161217	12005
19161228	臺南丸	大阪	大連	神戸・宇品・門司	19161220	12008
19171201	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19171201	12354
19171207	嘉義丸	神戸	大連	門司	19171201	12354
19171209	はるびん丸	大阪	大連	神戸・門司	19171201	12354
19171213	臺南丸	大阪	大連	神戸・宇品・門司	19171201	12354
19171216	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19171205	12358
19171220	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司	19171208	12361
19171223	はるびん丸	大阪	大連	神戸・門司	19171215	12368
19171227	臺南丸	大阪	大連	神戸・門司	19171215	12368
19171230	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19171223	12376
19181201	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司	19181201	12719
19181205	臺南丸	大阪	大連	神戸・門司	19181201	12719
19181207	臺東丸	大阪	大連	神戸・門司	19181201	12719

19181209	はるびん丸	神戸	大連	門司	19181201	12719
19181216	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司	19181203	12721
19181219	臺南丸	大阪	大連	神戸・宇品・門司	19181206	12724
19181222	はるびん丸	大阪	大連	神戸・門司	19181210	12728
19181225	天長丸	大阪	大連	神戸・門司	19181217	12735
19181229	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司	19181217	12735
19191203	嘉義丸	神戸	大連	門司	19191201	13084
19191206	はるびん丸	大阪	大連	神戸・門司	19191201	13084
19191209	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19191201	13084
19191210	潮州丸	大阪	大連	神戸・門司	19191206	13089
19191213	臺南丸	大阪	大連	神戸・宇品・門司	19191201	13084
19191216	安心丸	大阪	大連	神戸・門司	19191206	13089
19191216	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司	19191206	13089
19191220	はるびん丸	大阪	大連	神戸・門司	19191208	13091
19191220	汕頭丸	大阪	大連	神戸・門司	19191210	13093
19191223	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19191210	13093
19191224	臺東丸	大阪	大連	神戸・門司	19191221	13104
19191225	久満多加丸	大阪	大連	神戸・門司	19191217	13100
19191227	臺南丸	大阪	大連	神戸・門司	19191217	13100
19191230	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司	19191217	13100
19191231	潮州丸	大阪	大連	神戸・門司	19191221	13104
19201204	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19201201	13450
19201207	はるびん丸	大阪	大連	神戸・門司	19201201	13450
19201211	臺南丸	大阪	大連	神戸・門司	19201204	13453
19201214	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司	19201208	13457
19201218	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19201211	13460
19201221	はるびん丸	大阪	大連	神戸・門司	19201215	13464
19201225	臺南丸	大阪	大連	神戸・門司	19201219	13468
19201228	嘉義丸	大阪	大連	神戸・門司	19201222	13471
19211203	ばいかる丸	大阪	大連	神戸・門司	19211201	13450

19211206	臺南丸	大阪	大連	神戸・門司	19211201	13450
19211210	はるびん丸	大阪	大連	神戸・門司	19211204	13818
19211213	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19211207	13821
19211218	はいかる丸	神戸	大連	門司	19211211	13825
19211220	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19211214	13828
19211224	はるびん丸	大阪	大連	神戸・門司	19211219	13833
19211227	臺中丸	大阪	大連	神戸・門司	19211221	13835
19211231	ばいかる丸	大阪	大連	神戸・門司	19211229	13843

表6に示したように大阪から出港した汽船の広告はほぼ2週間前に『大阪毎日新聞』に掲載された。各船は毎週2回～3回大阪出船し、神戸・門司に寄港した。寄港地として、表1、2、4、5と参照すると汽船は宇品に寄港するのは1909年からである。月2回に宇品に寄港し、大連へ赴いた。『大阪商船株式会社五十年史』<sup>17</sup>に「明治四十二年四月以降、陸軍運輸部との契約に基づき、月二回往復航共、宇品寄港を開始した」とあり、1909年4月から大阪商船株式会社は陸軍省との契約を踐行するため、大阪・大連航路の汽船が月2回宇品に寄港した。

1908年に大阪・大連航路に就航した汽船は鉄嶺丸・大義丸・天草丸・開城丸である。1909年に大義丸のかわりに嘉義丸が大阪・大連航路に就航した。大義丸が大阪・大連航路に就航した期間は1906～1907年であり<sup>18</sup>、表6に記しているように、実際に利用されたのは1908年までであった。また、嘉義丸は1907年から大阪・大連航路に就航したと記述され<sup>19</sup>、実は1909年であった。1910年7月22日に鉄嶺丸は朝鮮木浦沖に座礁し、沈没した。<sup>20</sup>それ以降、臺中丸を加え、1911年に臺中丸・嘉義丸・天草丸・開城丸は大阪・大連航路に就航した。さらに、1915年に天草丸のかわりに大型新造汽船はるびん丸は大阪・大連航路に就航し、1921年に嘉義丸のかわりに新型汽船ばいかる丸は月2回の定期運航が始めた。1908～1921年の13年の期間に、大阪商船株式会社は月4隻を配船とし、毎週2～3回航海平均毎月10回航海を行った。

#### 4 旅行記からみる大阪・大連間の運航時間

1932年に東京市教員会の訪問視察旅行団が中国東北部と朝鮮の視察のため、汽船で大連へ向

<sup>17</sup> 神田外茂夫、『大阪商船株式会社五十年史』、大阪商船株式会社、1934年6月、245頁。

<sup>18</sup> 神田外茂夫、『大阪商船株式会社五十年史』、大阪商船株式会社、1934年6月、389頁。

<sup>19</sup> 神田外茂夫、『大阪商船株式会社五十年史』、大阪商船株式会社、1934年6月、389頁。

<sup>20</sup> 神田外茂夫、『大阪商船株式会社五十年史』、大阪商船株式会社、1934年6月、402頁。

かった。その旅行記『鮮満旅行記』には、

九月十七日午前八時四十分三の宮に到着した。...はるびん丸出帆の神戸港岸壁に到着した。時に午前十一時。正午出帆合圖のドラが鳴り、氣笛が秋の碧に響いて、五千五百噸の巨船はるびん丸は岸壁を離れようとしてゆらぎ出した。...九月十八日午前七時半門司に入港した。直ちに税關棧橋に上陸した。...門司の大阪商船税關棧橋より小蒸汽船で本船に歸る。午前十時四十五分。...愈々正午ドラと汽笛の合圖により門司を出帆。...九月十九日 未明朝鮮の多島海に入る。...九月二十日 午前一時頃山東半島の燈臺の光か左の遙が地平線に間歇的に淡く見えた。目指す大連港も近くなったのだ。...午前七時半頃港内に入る小蒸氣船より新聞記者、税關官吏等が先を争ふて本船内に跳び込む。午前8時愈々出迎人の群がるベランダより本船に架した可動装置の橋を渡って上陸した<sup>21</sup>。

とある。さらに『大阪毎日新聞』第17736号1932年9月16日大阪商船会社汽船広告によれば、「はるびん丸 神戸九月十七日正午 関門翌（翌日）正午」とあり、『鮮満旅行記』に記載されている「はるびん丸」と相違する。『大阪商船株式会社八十年史』に「大正4年（1915年）4月はるびん丸を配船したが...」<sup>22</sup>とあることから、鮮満旅行団が搭乗した汽船は「はるびん丸」であって「はるびん丸」ではなかった。また、はるびん丸を5,500噸と記しているが「総噸数5168.28噸」<sup>23</sup>であるから彼等が乗船したのは、はるびん丸であったことは確かである。

以上のように1932年9月17日正午に東京市教員会訪問視察旅行団は、はるびん丸で大連へ向かって神戸を出港し、9月18日午前7時半に門司を入港し、10時45分に門司を出港した。9月19日に朝鮮多島海を經由し、9月20日午前1時に山東半島に入った。9月20日午前7時半に大連に到着した。この行程で、神戸から大連への汽船航行時間は67時間30分かかった。門司に寄港する時間3時間15分を除き、実際の航行時間は64時間15分であった。神戸から門司への汽船航行時間は19時間30分であった。このように旅行記から航行時間の具体的なことがわかる。

## 5 おわりに

大阪商船会社による大阪・大連線は1906年4月から逓信省の命令航路に指定され、使用船4隻で毎週2回の航海を行い、大阪から神戸・門司を経て大連へ至る航路を開設した。大阪・大連の定期航路の開始は大連港繁榮の起点であった。日本の大連占領時代における、日本と中国

<sup>21</sup> 東京教員会編、『鮮満旅行記』、標準教科書出版協会、1933年8月30日、4頁。

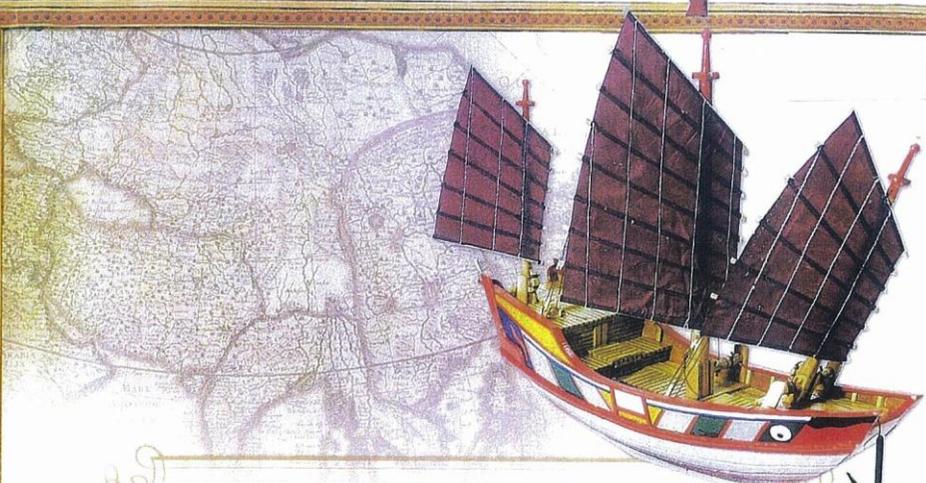
<sup>22</sup> 岡田俊雄、『大阪商船株式会社八十年史』、1966年5月1日、284頁。

<sup>23</sup> 神田外茂夫、『大阪商船株式会社五十年史』、大阪商船株式会社、1934年6月、421頁。

の間に旅客の往来と貨物の運送にとっては最も利用しやすい定期航路であったといえる。大阪・大連航路を担ったのは主に大阪商船会社であった。

1906年に大阪・大連線は定期運航になり、それ以降の20年間、大阪商船株式会社は月4隻配船とし、毎週2~3回航海、平均毎月10回航海の定期を運航した。寄港地は神戸・門司であり、1909年から月2回の宇品に寄港することは大阪商船株式会社と陸軍省の契約であった。大阪・大連航路は当時、日本から中国東北地方への幹線航路として注目され、数多くの旅客が利用されたことは旅行記からわかる。神戸から大連への汽船航行時間は67時間30分を要し。門司に寄港する時間3時間15分を除き、実際の航行時間は64時間15分であった。神戸から門司への汽船航行時間は19時間30分であった。

以上のように、大阪商船株式会社は大阪・大連航路の定期運航を確保した。さらに同社は新造船を投入し、大阪・大連航路は日に日に発展していったと言える。



**東西学術研究所創立60周年記念国際シンポジウム**

# —東西文化交流—

## 東西学術研究所の新たな未来へ

**場所** 以文館4Fセミナースペース

**日時** 2011.10.22.Sat 9:30~17:00

参加費  
無料

通訳  
あり

**↓ 記念式典** 司会: 二階堂 善弘

- 9:30 挨拶 榑 楠見 晴重 (関西大学長)
- 9:40 基調報告 松浦 章 (関西大学東西学術研究所長)

**↓ 記念講演会** 司会: 沈 国威

- 10:00~10:45 周振鶴 (中華復旦大学教授)
- 10:45~11:30 徐興慶 (台湾・国立台湾大学教授)
- 11:30~12:15 ノトリック・オニール (アメリカ・ノースカロライナ大学教授・東西学術研究所委嘱研究員)
- 12:15~13:15 昼食休憩

**↓ 研究発表** 司会: 原田 正俊

- 13:15~14:00 二階堂 善弘 (東アジアにおける風輪と学芸研究所主幹)【第1部門:日本】
- 14:00~14:45 小田 淑子 (個人・民族・国家研究班主幹)【第2部門:アジア】
- 14:45~15:00 休 憩

**司会: 森 隆男**

- 15:00~15:45 高橋 誠一 (比較文化研究班研究員)【第3部門:比較文化】
- 松井 幸一 (比較文化研究班非常勤研究員)
- 15:45~16:30 山本 登朗 (日本文学・芸能研究員)【第4部門:言語・思想】

**↓ 討 論** 司会: 松浦 章

- 16:30~17:00

**Access**



- 阪急電鉄をご利用の場合
  - 「北千里」行乗車で直行。関大前駅で下車。
  - 「河原町」「高槻市」「梅田」行などに乗車の場合は、淡路駅で「北千里」行に乗り換え、関大前駅で下車。
- 地下鉄堺筋線をご利用の場合
  - 「北千里」行乗車で直行。関大前駅で下車。
  - 「高槻市」行乗車で阪急淡路駅にて「北千里」行に乗り換え、関大前駅で下車。なお地下鉄堺筋線「天神橋筋六丁目」行は淡路までは行かないので注意。
  - ※関大前駅から関西大学までは徒歩約5分。

**連絡先**

**関西大学研究所事務室**

〒564-8680 大阪府茨田市山手町3-3-35

● E-mail: touzaiken@jm.kansai-u.ac.jp

● TEL: 06-6368-0653 ● FAX: 06-6339-7721

**主催：関西大学東西学術研究所**